

Center News

センターニュース
March 2009 No.11

愛知大学三遠南信地域連携センター
文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業



CONTENTS

- 巻頭言…1
- センター事業の取り組み状況…2
 - 地域づくり情報システム整備事業2008年度の事業報告
 - 2008年度・地域づくりトータルシステム事業
 - 教育・人材育成事業報告
- センター・トピックス…4
 - 「コミュニティカレッジ『鉄道の未来学』を終えて」
 - 「とよがわ流域圏」経験というESDのありかた
 - 2008年度愛知県豊川流域圏づくり推進事業終了
 - 県境を跨ぐエコ地域づくり戦略プラン研究会
 - 「三遠南信サミット2009in遠州」開催される
- 地域づくりトータルシステム研究会
- 東栄町・愛知大学三遠南信地域連携センター合同研修会
- 国際シンポジウムの開催
- 東栄町元気なまちづくり事業調査
- 地域づくりサポーターの活動から…8
 - 今年度のGIS事業を振り返って
 - 「田舎暮らしのためのシンポジウムin東栄」に参加して
 - DECOウォーク表浜 ～海岸での環境保全活動～
- 2008年度 三遠南信地域連携センター刊行物…9
- 三遠南信地域連携センター活動記録(2008.11～2009.3)…10
- サポーター活動記録(2008.11～2009.3)…11
- 実務研修を終えて…12
- 編集後記…12

◆巻頭言◆

「新しい公」の提示をめざして ～残された連携センターの課題～

三遠南信地域連携センター長 岩崎 正弥



三遠南信地域連携センターが設立されてすでに4年以上が経過しました。センターが母胎となって進めてきた文部科学省の学術研究高度化推進事業もあと1年となり、それに伴って今後のセンターのあり

方や事業の見直しを考えねばなりません。この場を借りて、皆さまへのご挨拶かたがた残されたセンターの課題を述べさせていただこうと思います。

連携センターは「地域社会との連携によって『新しい公』を創造する」という趣旨を柱として設立されました。「新しい公」に関する私どもの暗黙の、また国交省を初めとする行政サイドの大方の理解は、産官学民など多様な主体による地域連携というものだったと思います。センターでも、官学連携を主要な柱の一つに掲げ、この間事業を進めてまいりました。しかしながら、「新しい公」に関する枠組み論と同時に内実論が検討されねばなりません。地域連携とは人材交流の仕組みをつくれればそれでよいのか、それとも地域問題に関わる人々や組織と積極的に連帯していくことなのか。また、だれと(どんな組織と)、何をめざし、どのように連

携するのか。このあたりの議論が置き去りにされたまま、「地域連携」の枠組みだけが独り歩きしていた感は否めません。

したがって冒頭でも述べたとおり、センターの今後をこの1年でポスト・センター構想としてまとめると同時に、可能なかぎり「新しい公」ないしは三遠南信のありうべき地域像を地元の皆さまにむけて発信していきたいと考えています。すでに行財政サイドを中心に「三遠南信地域連携ビジョン」が提示されましたが、私ども連携センターの問題関心と事業の中心は、いわば「小さな自治」にありました。地域づくりを担う人材を育成するにはどうしたらよいのか、学生など若者による外からの地域づくり支援はどの程度有効なのか、自地域を点検評価することにはどんな意味があるのか、そもそも地域の活性化とは何なのか、また「限界集落」を維持存続させる方策はあるのか、などに主眼を置いて事業を進めてきたわけです。このあたりを『三遠南信地域づくり読本』(仮称)として総括することが次年度の主たる課題になると考えております。

引き続き地元の皆さまのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2008年度において、本事業は基幹システムの拡充、空間情報データベースの整備、空間解析の研究、GISコンテンツの開発とGIS人材育成、5つの方面にわたって活動を展開した。

基幹システムは分散型GISサーバーシステムに向けた拡充を行った。これまでWebGISを中心に整備したデータベース基幹システムに、新たにArcGIS Serverシステムを導入し、従来のWebGIS機能に、マップサービス、ジオプロセッシングサービス、イメージサービス、ジオデータベースサービスとグローバルサービスの5つのサービスを加えた。それにより、センターでは地域に向けWebGISの情報提供に限らず、GIS利用した情報処理サービスも提供可能になった。

地域づくりデータベースは、地域データを中心に2008年度も継続的に整備が行われた。地域航空写真データをはじめ、地域産業データ、住宅データと統計データを含め整備を行った。また、東栄町の土地利用データや組単位の人口データなどオリジナルなデータ作成も試みた。

空間データの整備とともに、2008年度から地域産業連関分析などを含めた空間解析の研究会を発足させた。本研究は市町村レベルで手軽に扱える地域産業連関分析法の開発を目指している。低コストかつ短時間で分析可能な方法として、比較的に

手しやすい「会社四季報」や地域タウンページなどから業種別の産業データを収集し、空間解析の理論とGIS技術を用いて「市内生産額」や「移輸出額」を推計する方法を研究している。

GISコンテンツにおいて、意思決定ツールの開発を念頭に、東栄町地域に限定し開発を行い、5つの試作品が完成した。東栄町の土地利用マップは、航空写真を利用した耕作地の利用状況を年度別にデータ化し、高精度な農地利用マップを作成した。組別の人口の推定は、国勢調査データと住宅地図を利用し、東栄町自治体組織の最小単位「組」の人口分布を正確に推計することができた。それらの基本手法を用いて、更に東栄町における高齢化社会に関する分析を行い、組単位の人口分布、住宅、バス路線、消防施設、病院と道路など総合的なGIS分析コンテンツを完成した。東栄町の学校場所選定問題や東栄町大千瀬川上流域の土地利用などの研究では、空間解析の手法を用いた最適地の選定と農地の地形特徴の解析を行った。

こうした研究と開発の過程に、人材育成の一環として学生サポーターも積極的に参加した。自ら研究会を開き、「東栄町の人口構成の分析」の研究テーマで、自作のGISコンテンツを完成した。その成果を「GIS Day in 愛大2009」において報告する予定である。

2008年度・地域づくりトータルシステム事業

事業責任者 黍嶋 久好

2008年度事業では、次の三事業を実施した。①地域づくりガイドライン・評価システムの開発研究事業、②地域づくり読本の制作事業、③自治体との連携事業である。

■地域づくりガイドライン・評価システムの開発事業では、地域力形成の地域研究として静岡県浜松市天竜区熊での調査と地域力点検の手法開発のために既存モデルを準用して東栄町において試行調査を行った。地域づくりの源となる地域資源、地域の人的な相互関係、地域の機能等に視点をおきソーシャルキャピタル形成と人材育成の観点から研究を行った。地域力点検手法については、既存モデルの有用性の検討とあわせての三遠南信地域モデルの試作を行っている。地域づくりトータルシステム開発研究会の成果は「デスクッション・ペーパー」として4編にまとめ発行した。

■地域づくり読本は、2005年度から研究を進めている「地域づくりトータルシステム事業」、「情報システム整備事業」、「教育人材育成事業」の合同事業として、今までの研究成果、三遠南信に関する情報、地域データ等を整理し三遠南信の地域づくり読本として提示することねらいとしている。2008年9月から地域づくり読本制作のための研究会を立ち上げ制作作業を継続している。

■自治体との連携事業については、愛知大学と連携協定を結んでいる東栄町、新城市、南信州広域連合と事業連携を行った。東栄町とは、東園目地区での集落調査、内閣府認定事業・地方の元気再生事業（ゆいのまちづくり戦略会議）での「魅力ある田舎づくりのための事業」提案を行った。南信州広域連合とは、総務省・文部科学省・農林水産省のモデル事業として「南信州セカンドスクール事業」が飯

田・下伊那地域でスタートをした。三遠南信地域連携センターは、この事業の協力機関として参加し

ており、受け入れ側のセミナー運営に関わった。

教育・人材育成事業報告

事業責任者 岸本恵次郎

1. 三遠南信コミュニティカレッジの開催

2008年度は、前期に「三遠南信“まつり”の魅力を考える」、後期に「鉄道の未来学」を開催した。前期は、民俗文化の宝庫である三遠南信地域の“まつり”を取り上げ、その多様性と奥深さ、伝統維持の課題等を探ることを目標に5回の講座と写真とチタンアートの作品展を同時に開催した。前期では、奥三河の参加者を考慮して2回を新城市に会場を設定したが、必ずしも参加者の増加には結びつかず、開催方法については遠隔講義システムを含め新たな方向を検討していくこととしたい。

後期の「鉄道の未来学」は、折からの原油高を背景に鉄道への関心が高まったこともあり、応募総数が100名を超えたことは、コミュニティカレッジで初めてのことであった。また、鉄道ファンの参加も多くみられ、毎回の講座では質疑があとを絶たない状況であった。5回の講座は、JR東海や地元の鉄道会社から講師を派遣いただき、企業側の取組みを聞くとともに、住民側からの鉄軌道を活用したまちづくりの取組みにつき聞くことができた。今後は、三遠南信地域の公共交通をいかに維持し、活性化させるかを総合的な視点から検討していくことを課題としたい。

2. 愛知県「豊川流域圏づくり推進」委託事業の支援

2005年度から2007年度にわたって愛知県や国土交通省豊橋河川事務所・東三河地域研究センターとの連携事業として「とよがわ流域大学・流域圏講座」を開催してきた。愛知県では、豊川流域圏づくりをより一層推進していくことをめざして、流域圏一体化、流域資源の活用等に資する具体的、実践的な自主的活動を2008年度の委託事業として公募した。これに対して、昨年度の講座で成果発表した3グループおよび連携センターの「共同提案事業」での1グループ、計4グループの事業が採択され、取り組んだ。前者は「みずの絆の再生をめざす環境保全活動と交流推進事業」「“山城”史跡を有効活用した流域圏づくり事業」「みんなで歩こう豊川マップづくり事業」、後者は「海・山・野」三地区トライアングル交流事業」で、連携センターではそれぞれの事業に協力、支援を行ってきた。

連携センターでは、4つの事業が今後も活動を継続していくことができるよう引き続き協働作業、支援をすすめていきたい。

3. 地域づくりサポーター活動

2008年度のサポーター活動は、GIS事業、地域づくりリータルシステム事業に参加する一方、豊橋市のサマーカレッジチャレンジショップの取組み、売木村新米祭りへの参加、デンソーボランティア活動(表浜DECOウォーク)へのスタッフ参加、上記愛知県委託事業への協力活動等を行った。独自活動として駄菓子屋再開を模索したが、実現には至らず、今後の課題とした。

4. 地域との連携協力

(1)東三河自然環境ネットへの参加

「とよがわ流域大学・流域圏講座」事業の次の展開として「流域案内人(仮称)」育成事業を検討していたところ、その人材育成を生物多様性保全事業と連携して実施したいとの協力依頼があり、本学のほか愛知県、豊橋市、穂の国森づくりの会、豊橋うみがめクラブ等7団体が協議会を設置(東三河自然環境ネット)して東三河の生物多様性保全事業に取り組むことになった。2008年度は3ヵ年計画で行われる事業の初年度で、アカウミガメの実態調査と孵化場設置、東三河の多様な自然の入門ガイドと3月7日にシンポジウムの実施、人材育成のためのテキスト作成を中心に事業がすすめられた。

2009年度からは、2010年に開催される生物多様性条約締約国会議COP10に向けて本格的な活動をすすめる予定となっている。

(2)三遠南信サミット住民セッション

2005年度の三遠南信サミットで住民セッションが設けられ、以降歴史文化の市民団体を含めて交流・連携が広がり、議論を重ねてきている。本年度のサミットは浜松で行われ、住民レベルでの情報交換、交流連携のための組織「三遠南信地域市民連絡会(仮称)」が提案され、今後議論を深めていくことになった。

(3)ウィークエンドセミナー

新城市地域間交流施設(旧七郷一色小学校)で行われているウィークエンドセミナーは、本学と技科大、新城市の3者で運営している。2008年度は4回開催され、うち2回(7月・11月)を本学が担当した。また、10月の地区体育祭にもサポーター8名を含めた10名が参加し、交流を深めた。2009年度も愛大、技科大各2回、計4回のセミナーを行う予定である。

「コミュニティカレッジ『鉄道の未来学』を終えて」

2008年度秋のコミュニティカレッジ『鉄道の未来学』は、10月25日から11月29日までの6回の講座を好評のうちに終えた。4回は、JR東海事業本部と飯田線、豊橋鉄道、天竜浜名湖鉄道の各企業側から見た現状と今後一リニア新幹線を現実の課題としているJR東海、社員の手で広報パンフレットを作成して観光客誘致に努める飯田線、全面低床車両「ほっとラム」導入で地域の活性化をはかる豊橋鉄道、DMV(軌道と道路双方を走る新

しい乗り物)の実験を通して公共交通の発展を模索する天浜線について語っていただいた。2回は、えちぜん鉄道と富山ライトレールの事例から、住民の側がいかん公共交通の存続にかかわったか、その意義と教訓を振り返りかえていただいた。

三遠南信自動車道と第二東名の工事がすすみつつあるなか、飯田線、渥美線、天浜線、遠鉄といった地域の公共交通を維持していくための運動をいかに強めていくかが問われている。道路



が軌道系システムかの二者択一ではなく、地域の社会基盤整備を総合的に促進させるための施策づくりと合意形成が求められているといえよう。

「とよがわ流域圏」経験というESDのありかた

「国連 持続可能な開発のための教育(ESD)の10年」(2005-14年)を推進する国連は、UNESCO(国連教育科学文化機関)をリード機関として、持続可能な開発をめぐる新たな価値観や実践を目指す。ESDとは、環境やエネルギー資源など地球規模の社会的課題を日常生活に引きつける教育や学習のことである。その教育に期待されるのは、大学などの学校教育と、地域経済の再生やまちづくりといった市民や企業が行う学校外教育

との相互連携である。

学生サポーター活動やとよがわ流域圏づくりを通じて、三遠南信地域におけるESD経験を蓄積してきた本センターは、国連大学が認定するESD拠点(ESD-RCE)のひとつ、中部ESD-RCEの構成団体である。本センターは、中部ESD拠点推進会議の月例幹事会をはじめ、同RCEの各種業務に携わってきた。その過程で、中部地域のみならず全国、ひいては世界規模でのESD経験を吸収すると同時



に、同RCEが開催する年次総会やフォーラムを活用し、本センターの活動周知に努めてきた。ESD諸団体間の交流に寄与すべく、教育・人材育成事業をより発展させたい。

2008年度愛知県豊川流域圏づくり推進事業終了

「2008年度愛知県豊川流域圏づくり推進事業」に採択された2007年度とよがわ流域圏大学・流域講座修了生で組織された3グループの企画提案事業と連携センターが呼びかけて取り組んでいた1グループの共同提案事業が、2009年1月末までに愛知県へ事業完了の報告がなされ、

無事終了した。

それぞれのグループの事業名は「『海、山、野』三地区トライアングル交流事業」「『山城』史跡を有効活用した流域圏づくり事業」「みずの絆の再生を目指す環境保全活動と交流推進事業」「『リバーウォーク みんなで歩こう豊川』に向けたマップづ

くり事業」であり、短い活動期間であったが、精力的に活動が展開された。連携センターとしても活動サポートを積極的に行うことができた。

このうち2事業については、個別に冊子体で成果物が刊行され、豊川流域圏内の関係各所に広く配布された。

2009年2月21日には、愛知大学で合同活動報告会を開催し、それぞれのグループがそれぞれの活動内容を改めて知ることができたと同時に、お互いの活動を理解し合うことができたようであった。

2009年度以降も4グループ

は活動計画を立て、豊川流域圏のみならず、三遠南信地域の一体化に向けた活動を継続する。また、グループ間で互いの連携・協力体制も確認され、連携センターでも引き続き活動支援を実施していく予定である。



県境を跨ぐエコ地域づくり戦略プラン研究会

この研究事業は、豊橋技術科学大学の技術科学的観点と愛知大学の人文社会的観点の融合を図り地域の公共的団体との連携により、持続可能な地域社会形成のための「県境を跨ぐ地域づくり戦略プラン」研究と「自立地域づくりに不可欠な人材育成・意識啓発アクションプログラム」開発に取り組むことを目的として、2006年度から2010年度にわたる期間プロジェクトである。豊橋技術科学大学が6部会を愛知大学で2部会を担当している。

2月19日にホテルアソシア豊橋において、第三回公開シンポジウムが開催された。

総務省地域自立支援課山崎

重孝課長を招き、「広域連携と地域自立」と題して基調講演があった。研究成果の中間報告として本学が担当している「ソーシャルキャピタル・社会力評価部会」からは経済学部岩崎正弥教授が、ソーシャルキャピタル・社会力評価、地域力の要素概念、静岡県浜松市天竜区熊地区での地域調査等から実証研究の一部を報告した。つづいて、「中山間地定住促進・地域再生部会」からは、三遠南信地域連携センター黍嶋久好上席研究員が、地域力点検ガイドラインの開発、東栄町での試行した地域力評価調査、三遠南信地域の自治体実施している地域政策から地域再生・定住促進方策について



報告した。2009年度では、「ソーシャルキャピタル・社会力評価部会」と「中山間地定住促進・地域再生部会」の統合を図り、「人材育成・意識啓発アクションプログラム開発部会」として4年目の研究事業を進める予定である。

「三遠南信サミット2009in遠州」開催される

来る2009年2月10日にアクトシティ(浜松市)にて「三遠南信サミット2009in遠州」が開催された。1994年に第1回が開催されて以来、16回目となる。2005年度に設置され、連携センターでも支援してきた住民セッションは2巡目に入った。

今回のサミットテーマは「三遠南信250万流域都市圏の創造に向けた挑戦」で、2007年度の第15回三遠南信サミットで合意を得た「三遠南信地域連携ビジョン」の具体的な取り組みの

スタートともなった。

午前の住民セッションでは、東三河、遠州、南信州の3圏域の住民組織の代表が一堂に会し、組織間の連携体制の必要性が語られた。

午後は、全体会終了後、分科会が行われた。例年は行政、経済界、住民の3者が個別のテーブルで三遠南信地域のあり方や今後の方針について議論を交わしていた。しかし今回から3者が同じテーブルで議論を交わす初めての試みを実施された。



三遠南信地域連携ビジョンの中に盛り込まれている5つの政策の基本方針に沿って、道分科会、技分科会、風土分科会、山・住合同分科会の4つの分科会に別れ、それぞれの立場から意見が

出され、圏域づくりへの共通理解と認識を深める第一歩となった。

また、三遠南信地域連携ビジョ

ンに盛り込まれている「三遠南信地域連携ビジョン推進会議（SENA・セナ）」が2009年4月より立ち上げられ（事務局は浜

松市）、住民・大学・経済界・行政の連携組織が動き出すことになる。

地域づくりトータルシステム研究会

3月4日に本学豊橋校舎において公開研究会を開催した。ここでは、「地域づくりトータルシステム研究会」が取り組んできたソーシャルキャピタルの形成に関する研究、地域力点検手法の開発に関する成果報告を行った。あわせて、NPO法人を組織し実践活動をされている方々をお招きし三遠南信の地域力をテーマに地域づくりの新たな担い手、地域経営を考えた。基調報告で

は、京都府綾部市のNPO法人里山ネットあやべ、半農半X研究所代表の塩見直紀氏が「地域・集落の価値を見つめ直し地域力を創造する」をテーマに報告がされた。研究報告として4名の方々がいった。静岡県浜松市熊、NPO法人夢未来くま、大平展子副理事長が「小さな起業から地域経営」について報告した。愛知県東栄町、NPO法人ななさとくる一ふ、伊藤俊弼専務理事が「ゆ

いのまちづくり戦略」について報告した。三遠南信地域連携センターからは、ソーシャルキャピタルの形成の研究として岩崎正弥センター長（経済学部教授）が、地域力点検試行調査研究として黍嶋久好上席研究員がそれぞれ報告をした。参加者からは、地域と大学との関わり方、研究成果の地域への還元、地域づくりで大学が何を担うのか等の提言がなされた。

東栄町・愛知大学三遠南信地域連携センター合同研修会

3月2日、16日に東栄町との合同研修会を開催した。愛知大学と東栄町との連携協定の関連事業でもあり役場職員、町民、愛知大学の学生、教職員が参加した。今回の目的をワークショップ手法から自分自身の気づきを学ぶことにおいている。ワークショップ（参加型研修）は身体を動かすこと、共同作業をすること、創造することを通じて気づくことの場合を提供することでもある。研

修会の講師には、長野県岡谷市のNPO法人農と人と暮らし研究センター片倉和人事長をお招きした。二日間でワークショップ手法として15のパターンが紹介され「チームワーク、ブレインストーミング、演劇手法」から課題の発見、解決策、成果の確認、気づきの共有化等の共同作業を体験した。このことの成果をいかに地域活動の中に落とし込めるか新たな課題も明らかに



なった研修会であった。

東栄町が独自に進めている元気なまちづくり事業に対しての一つの支援でもある。

国際シンポジウムの開催

当センターは、2009年3月14日（土曜日）に、愛知大学豊橋校舎で「Regional Planning in a Global Context」をテーマに国際シンポジウムを主催した。

同シンポジウムの開催にあたって、韓国のKIET（Korean Institute for Industrial Economics and Trade）からはDongsoo Kim氏、中国の内

蒙古大学からはFeng-lian Du（杜鳳蓮）氏、貴州大学からはHua-shu Wang（王華書）氏、そしてタイのNaresuan UniversityからはRatchanee Mukhjang氏が招聘され、各国の地域計画等の事例が紹介された。その後のパネルディスカッションにおいては、それぞれの国および地域が抱える地域の



諸問題について活発な議論がなされた。

今年度のGIS事業を振り返って

大学院 経済学研究科 経済学専攻 修士課程1年 村田 裕志

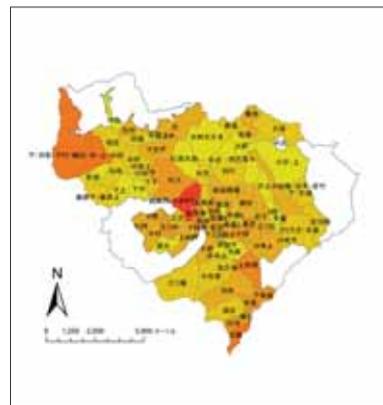
今年度のGIS事業では、以下の項目について勉強会を行った。
1.GISの理論 2.GISの操作方法の習得 3.東栄町の土地利用表現 4.東栄町の人口分布状況の表現

この事業が始まった時、私を含めこの勉強会に参加しているほとんどのサポーターは、GISにふれたことがなかった。そこでまず蔣先生のゼミに参加し、GISの理論と基本的な操作を学習した。この復習を行う勉強会がおおよそ3ヵ月間続いた。次にGIS上で東栄町での土地利用について、航空写真から「田、畑、茶、果樹園、耕作放棄地、その他」を判別し区分けした。その後各ポリゴンに上記6つの属性を追加した。最後に東栄町の人口分布状況をGISで表現した。この作業は地区ごとの人口の集計から始まった。そして分析の対象となる年齢区分や性別などを取り出し、

さらにこのデータをGISで表現した。

GISの作業を行う過程でエクセル上での作業が必須となってきた。ここで各個人のレベルが明確に表れた。今年度の作業の中でGISの操作よりもむしろその前提であるエクセル上での数値の整理に時間がかかった。そのため、GISの勉強会というよりはむしろエクセルの使い方の勉強会になってしまうこともあった。

今後の課題は、学習した内容をどのように発展させていくのかということである。今年度行った作業では、地域の一次分析しかできない。なぜその結果が生まれたのか地理的見地や歴史的見地から分析する必要がある。そこから地域の特徴を読み取り、集落の衰退の経緯や今後の発展について議論することができるようになると思う。また、勉強会が機能するように各サポーターが



毎回の勉強会に必ず参加することや、さらなる高度なGISの操作を習得する為にも先生を交えた勉強会も積極的に行う必要がある。GISを操作する時、その前提としてエクセルを使用した数値整理の作業があり、ある程度パソコンを操作できるサポーターが必要と思われる。今後GIS事業を継続させる上で、後輩にGISの理論や操作を伝える時、どれだけ経験者がGISを理解しているのかが重要になってくる。

「田舎暮らしのためのシンポジウムin東栄」に参加して

経済学部4年 村上 貴裕

私たちは、2009年1月18日(日)に愛知県東栄町で行われた「田舎暮らしのためのシンポジウムin東栄」へ参加した。このシンポジウムに参加した理由は、昨年、東栄町東園目地区における聞き取り調査を行い、NPOななさとぐるーぷの伊藤俊弼様よりシンポジウムの提案者としての参加のお誘いを頂いたからだ。

このシンポジウムの趣旨としては、水源地本来の姿である「魅力ある田舎」をつくるための「交流の輪」を結びつけることである。

その背景として、人の暮らしの中で最も重要な自然環境に直接影響する「水源の里」がいま、過疎と高齢化の波の中で本来の機能を果たせなくなりつつあるという現状にある。荒れてゆく山や農地をそのまま放置することは、都市の崩壊にもつながるものと心配されている。そこで、ゆいのまちづくり戦略会議では山村と都市の住民が主体となって自由で前向きな討論を行う必要があると判断したからだ。

シンポジウムには5名のサポーターが参加し、様々な視点から提案を行った。提案に、「年間

20万人の集客力を持つ“とうえい温泉”を最大限に利用すべきだ」という既に存在する地域資源を新たに見つめなおしていくことや、年間7,000kgにも上る東栄町からの余剰野菜の活用法の提案、「シルバー世代による地域ブランドの開発と展開に注目してはどうか」という高齢化問題を悲観的に捉えるのではなく、そのシルバー世代を巻き込んだ地域づくりができないかというものがあった。この時私は「東栄れすとらんクラブ」という利用者(客)が自分の食べたいものを食べたい分だけ、しかも自分の手で

畑から収穫して調理するというアイデアを提案した。その農家レストランというアイデアが農林水産省の「平成21年度 ふるさと地域力発掘モデル事業」に採択された。

また、シンポジウムでは私たちからの提案だけでなく、一般参加者から多くの意見が飛び交った。その中でも特に、UJIターン

により東栄町へ移住してきた方々からの東栄町で暮らすことへの提案は、とても参考になった。また、私たちサポーターがこのシンポジウムで提案したことは、今後私たちが東栄町で活動を継続していくに当たり大変意味のあることだった。これに参加したサポーターも大勢の前で自分の意見を発表したことにより、自己成

長に繋がったと思う。



DECOウォーク表浜 ～海岸での環境保全活動～

経済学部4年 木全 雅裕

今年度2009年3月8日(日)に行われた株式会社デンソー主催によるDECOウォーク表浜に三遠南信地域連携センターから、サポーター8名と黍島上席研究員の参加があった。他にスタッフとしてDENSO関連の企業、豊橋技術科学大学、NPO法人表浜ネットワーク等の参加があった。

参加者はスタッフを含め全部で約150名であった。1グループが20～30名程度で5グループに分けられた。その中で私たちは、各グループのサブリーダーとして活動した。

活動内容はこういったものだったかという、堆砂垣づくり、弘法麦の播種、清掃活動であった。他には、ネットワーク表浜田中さんから当日行った活動が表浜の環境保全にいかに関与するかということや、アカウミガメに関する話が講義形式で行われた。

堆砂垣は、砂浜に海岸より少し山側にあるメダケと奥三河で

間伐された木材を用いて作られた。この堆砂垣は、風で飛ばされる砂をせき止めることにより砂浜の流出を防ぎ、アカウミガメの産卵場所である砂浜を守ることができる。

しかしそのまま垣根を作っただけでは、垣根が崩壊、撤去された時に砂が風で飛ばされてしまう。そのため弘法麦という砂浜地域にて生息する植物を植生させることにより、砂の定着を図った。

砂浜上には意外とゴミが少なく、清掃活動は風で飛ばされたゴミが多々落ちていたメダケが植わっている地帯で行われた。

最後に私がDECOウォーク表浜に参加した理由を述べると、2010年に愛知県名古屋市で第10回目の会議が行われる生物多様性会議(COP10)といった生物多様性、環境保全といったものが声高に叫ばれている中、環境保全活動という具体的な行

動をしてみたいという気持ちがあったからである。他のサポーターの参加理由としては、「アカウミガメが単純に好き」「アカウミガメが今後も表浜海岸を産卵場所として利用できるように何か活動したい」等、具体的な参加動機を持っていたように感じる。

私たちが今回行った活動は、未来の表浜海岸、またその中で生きる生物を守るといった面においても有益であると考えられる。今後もそういった活動に一人でも多くの理解者や、具体的な活動を行う人が増えるといいだろう。



2008年度 三遠南信地域連携センター刊行物

■三遠南信コミュニティカレッジ報告書

『三遠南信みちの魅力を考える』 『三遠南信まつりの魅力を考える』 『鉄道の未来学』

■『2008年度地域づくりサポーター活動報告書—地域づくりトータルシステム開発事業・GIS事業—』

■地域づくりトータルシステム開発事業成果報告

『No.I-1 地域開発マネジメントと評価システムについて』 国際連合地域開発センター研修部長 高井 克明

『No.I-2 空間データマイニングによる三遠南信地域の地域性分析』 安城市役所情報システム課情報推進係専門主査 稲垣 英樹

『No.I-3 地域学から地域力評価へ』 愛知大学三遠南信地域連携センター 岩崎 正弥・佐藤 正之

『No.I-4 地域づくり・地域経営評価システムに向けて—三遠南信中山間地での「地域力点検」の試行調査と結果及び考察—』
愛知大学三遠南信地域連携センター 黍嶋 久好

三遠南信地域連携センター活動記録(2008.11~2009.3)

月	日	曜日	研究室・委員会等名	会 場	出席者・概要
11月	1日	(土)	2008年度 三遠南信コミュニティカレッジ「鉄道の未来学」第2回講座「飯田線ろまん100年」	本館5階 第3・4会議室	講師:日向聖一氏(東海旅客鉄道(株)飯田支店長)
	1日	(土)	売木村 新米祭り・秋色感謝祭	長野県売木村	岸本、黍嶋 地域づくりサポーター(市川、大島、大橋、木全、鈴木、竹内、山口、村上)
	2日	(日)			
	8日	(土)	2008年度 三遠南信コミュニティカレッジ「鉄道の未来学」第3回講座「路面電車と豊橋のまちづくり」	本館5階 第3・4会議室	講師:田中敏和氏(豊橋鉄道(株)取締役鉄道部長)
	9日	(日)	三河コンヴェクションアカデミー 第13回ウィークエンドセミナー	新城市鳳来地域同 交流施設	テーマ:『森林・林業の過去、現在、未来 一奥三河の森と木と人に託す』 講師:村松幹彦氏(愛知県森林組合連合会 代表理事会長)
	15日	(土)	2008年度 三遠南信コミュニティカレッジ「鉄道の未来学」第4回講座「天浜線のこれから」	本館5階 第3・4会議室	講師:井口健二郎氏(天竜浜名湖鉄道(株)代表取締役社長)
	16日	(日)	梅田川フォーラム イベント クリーンアクション&梅田川を学ぶ会	梅田川下流	平川、地域づくりサポーター(木全)
	18日	(火)	2008年度 愛知県豊川流域圏づくり推進事業「海、山、野」トライアングル交流会・戦後の写真展	前芝地区市民館 及び前芝集会所	岸本、平川、加治、地域づくりサポーター(木全、清川)
	20日	(木)	運営委員会(08-13)		
	22日	(土)	2008年度 三遠南信コミュニティカレッジ「鉄道の未来学」第5回講座「地域活性化と鉄道」	本館5階 第3・4会議室	講師:川上洋司氏(福井大学大学院工学研究科教授)
	28日	(金)	平成20年度 第1回「県境を跨ぐエコ地域づくり戦略プラン研究会」幹事会	ホテルアンシア 豊橋	岩崎、黍嶋、古河、佐藤正之(豊橋技術科学大学CCR「県境を跨ぐエコ地域づくり戦略プラン」研究会)非常勤研究員
	29日	(土)	2008年度 三遠南信コミュニティカレッジ「鉄道の未来学」第6回講座「LRT導入に向けて市民が果たした役割」	本館5階 第3・4会議室	講師:岡本勝規氏(北陸線・ローカル線の存続と公共交通をよくする富山の会世話人)
	30日	(日)	花祭フェスティバルin名古屋	豊橋総合コンベンションホール	センター長、黍嶋、山本、平川
12月	4日	(木)	デンソー-DECOウォーク事前打合せ	豊橋市表浜海岸	岸本、地域づくりサポーター(大橋、木全、村上)
	6日	(土)	2008年度 第2回センター会議 里山・里地・里の水を育む 新城エコファーマー2008PartⅢ 里山の手入れ体験+古戦場見学&交流会	研究館1階 第1・2会議室 新城市上平井地区	サポーター(乙部、木全、村田)
	20日	(土)	2008年度 愛知県豊川流域圏づくり推進事業 海・山・野トライアングル交流フォーラム 一前芝・七郷一色・西馬草の戦後のくらしと流域圏づくり	本館5階 第3・4会議室	第1部:豊川流域研究会の取組み報告 一戦後の暮らしぶりの聞き取り調査結果一 ・2006年度調査 田原市野田町西馬草地区 山田政俊 ・2007年度調査 新城市七郷一色地区(旧鳳来町) 森長千臣 ・2008年度調査 豊橋市前芝町 加藤正敏 第2部:パネルディスカッション 「地域住民の手による豊川流域圏づくり」 パネリスト:瓜生徳男(前野田校区自治会長) 荻野鐵夫(前新城市七郷一色区長) 若子 正(元東三のり研究会副会長) 山本春美(豊川流域研究会) コメンテーター:根羽幸信(愛知県地域振興部水資源監) 岩崎正弥 コーディネーター:平川
	21日	(日)	豊川・渥美・前芝フォーラム2008 エコアクション・Xマスイベント	渥美半島・西の浜	平川、地域づくりサポーター(村上)
	22日	(月)	運営委員会(08-14) 東栄町「健康づくり大学」事業推進協議会	センター事務室 東栄町役場2階 会議室	黍嶋
1月	5日	(月)	運営委員会(08-15)	センター事務室	
	12日	(月)	2008年度 愛知県豊川流域圏づくり推進事業 公開シンポジウム 「戦国時代を活かした地域おこし 地元の山城、武将にもっと光を」	記念会館3階 小講堂	第1部:中世山城・戦国武将を活用した先進地事例紹介 報告1:愛知県の武将観光について 川出浩之(妙愛知県観光協会企画事業部長) 報告2:民間主導の戦国武将、雑賀孫子でまちおこし 森下幸生(和歌山県「孫市の会」会長) 報告3:戦国ブームの盛り上がりと実例 鈴木智博(新感覚戦国時代プロジェクト「戦国魂」プロデューサー) 報告4:豊川流域圏内の山城とその活用案 中村秀夫(三遠南信広域観光歴史文化研究会代表) 報告5:浜松市の中世城郭の活用と効果 辰巳 均(静岡県浜松市文化財担当課長) 報告6:高根城の保存整備の流れと縄張について 加藤理文(織豊期城郭研究会) 第2部:トークセッション「戦国時代を活かした地域おこし」 パネリスト:川出浩之、森下幸生、鈴木智博、辰巳 均、加藤理文 進行:中村秀夫
	18日	(日)	東栄町「魅力ある田舎づくり提言シンポ」	東栄町・花祭会館	黍嶋、地域づくりサポーター(大島、大橋、木全、近藤、村上)が提言者として出席
	24日	(土)	運営委員会(08-16) 2008年度 第3回センター会議	センター事務室 研究館1階 第1・2会議室	
			外部評価委員会	研究館1階 第1・2会議室	外部評価委員 ・小松隆二氏(東北公益文科大学教授・慶応義塾大学名誉教授) ・北川泰三氏(財団法人日本地域開発センター 主任研究員) ・戸田敏行氏(社団法人東三河地域研究センター 常務理事) ・近藤共子氏(財団法人日本開発構想研究所 研究主幹)
			2008年度 愛知県豊川流域圏づくり推進事業 活動発表会 『みずの絆の再生を目指す環境保全活動と交流推進の取組み』 一イベントから拾った流域圏の未来一	本館5階 第3・4会議室	第1部:環境保全活動と交流推進の取組み報告 報告1:新城エコファーマー(新城あくりの郷)の活動 大谷至弘 報告2:梅田川フォーラムの活動 小林芳樹 報告3:豊川・渥美・前芝フォーラム(みなと塾)の活動 加藤正敏 報告4:流域圏通貨「まい」の活動 野田賢司 ビデオ鑑賞 <環境保全型農業:2008年度新城あくりの郷の取組み> 第2部:参加者を含めた意見交換

月	日	曜日	研究室・委員会等名	会 場	出席者・概要
2月	10日	(火)	三遠南信サミット2009in遠州	ホテルクラアシア松崎	参加:佐藤学長、センター長、黍嶋、岸本、山本、平川、暁、加治
	12日	(木)	運営委員会(08-17)	センター事務室	
	19日	(木)	県境を跨ぐエコ地域づくり戦略プラン 第3回公開シンポジウム 「県境連携による持続可能な地域マネジメントを考える」 —環境と自立地域社会の視点から—	ホテルアソシア豊橋	研究中間成果報告 ソーシャルキャピタル・社会力評価 岩崎部会長より報告 地域力点検・評価ガイドライン開発の試み 黍嶋部会長より報告
	21日	(土)	2008年度愛知県委託事業合同報告会 及び2009年度事業支援説明会	研究館1階 第1・2会議室	各グループより報告 「海、山、野」三地区トライアングル交流事業(豊川流域研究会) 「山代」史跡を有効活用した流域圏づくり事業(三遠南信広域 観光歴史文化研究会) 「みずの絆の再生を目指す環境保全活動と交流推進事業(豊川 流域圏通貨バンク協議会) 「リバーウォーク みんなで歩こう豊川」に向けたマップづくり 事業(豊川リバーウォーク準備委員会)
			デンソーDECOウォーク事前打合せ	小島海岸コミュニティ	黍嶋、地域づくりサポーター(竹内、平井)
	27日	(金)	運営委員会(08-18)	センター事務室	
3月	2日	(月)	第1回東栄町・愛知大学合同研修会	東栄町産業会館	講師:片倉和人氏(特定非営利活動法人農と人とくらし研究センター代表理事) センター長、黍嶋、岸本、暁、加治 地域づくりサポーター(大島、木全、村上、村田)
	3日	(火)			
	4日	(水)	地域づくりトータルシステム研究会主催 公開研究会 「三遠南信における地域力を考える」	研究館1階 第1・2会議室	基調報告:『地域・集落の価値を見つめ直し地域力を創造する』 講師:塩見直紀氏(京都府綾部市 NPO法人里山ねっと・あやべ) 研究報告「三遠南信地域における地域力の形成を考える」 ①「小さな起業から地域経営」大平展子氏(静岡県浜松市・NPO 法人夢未来くんま事務局長) ②「ソーシャルキャピタル形成の研究」センター長 ③「ゆいのまちづくり戦略」伊藤俊弼氏(愛知県東栄町・NPO法人 ななさとグループ専務理事) ④「地域力点検の試行調査研究」黍嶋
	7日	(土)	平成20年度 環境省補助事業COP10パートナーシップ事業 公開シンポジウム 生物多様性から見た東三河の森・川・海	記念会館3階 小講堂	基調講演 演題:「森から見た生物多様性の保全」 講師:藤森隆郎(㈱日本森林技術協会技術指導役) パネルディスカッション コーディネーター:藤田佳久 パネリスト:横山良哲氏(鳳来寺山自然科学博物館館長) 大須賀哲夫氏(豊橋うみがめクラブ代表) 高橋豊彦氏(NPO朝倉川育水フォーラム理事長) コメンテーター:藤森隆郎氏(㈱日本森林技術協会技術指導役)
	8日	(日)	宮川プロジェクト活動報告会2008 新城エコファーマー(あぐりの郷)2009 菜の花まつり デンソーDECOウォーク	伊勢市ハートプラザみその 新城市上平井地区 小島海岸コミュニティ	岸本 平川、地域づくりサポーター(村田) 黍嶋、地域づくりサポーター(大橋、木全、竹内、平井、村上)
	12日	(木)	運営委員会(08-19)	センター事務室	
	14日	(土)	国際シンポジウム	本館5階 第2会議室	
	16日	(月)	第2回 東栄町・愛知大学合同研修会	東栄町産業会館	センター長、黍嶋、岸本、暁 地域づくりサポーター(大島、大橋、木全、村上、村田)
	25日	(水)	県境を跨ぐエコ地域づくり戦略プラン幹事会	ホテルアソシア豊橋	
	28日	(土)	2008年度 第4回センター会議	研究館1階 第1・2会議室	

◆ サポーター活動記録(2008.11~2009.3) ◆

日付	活動内容
11月 1日(土)	売木村新米祭 黍嶋、岸本、サポーター(市川、木全、村上、鈴木駿、山口、 大島、大橋、竹内)
11月 2日(日)	売木村新米祭 黍嶋、岸本、サポーター(市川、木全、村上、鈴木駿、山口、 大島、大橋、竹内)
11月14日(金)	GIS第18回勉強会 サポーター(陶、村田、平井)
11月15日(土)	東栄町花祭り 黍嶋、サポーター(村上、大橋、竹内、堀、任)
11月16日(日)	東栄町花祭り 黍嶋、サポーター(村上、大橋、竹内、堀、任)
11月21日(金)	11月サポーター定例会 黍嶋、岸本、サポーター(村田、木全、村上、乙部、草田、 高木、周、竹内、小林、河津、大島、大橋) GIS第19回勉強会 サポーター(陶、村田、草田、平井)
11月24日(月)	トータルシステム勉強会 黍嶋、サポーター(村上、吉川、高木、大島、近藤)
11月28日(金)	GIS第20回勉強会 サポーター(陶、村田、草田、平井)
12月 1日(月)	トータルシステム勉強会 黍嶋、サポーター(木全、村上、吉川、大島、大橋)

日付	活動内容
12月 4日(木)	DENSO・DECOウォーク研修 黍嶋、岸本、サポーター(木全、村上、吉川、大橋)
12月10日(水)	GIS第21回勉強会 サポーター(陶、村田、草田、平井)
12月13日(土)	東栄町調査活動 黍嶋、サポーター(木全、村上、大島)
12月14日(日)	東栄町調査活動 黍嶋、サポーター(木全、村上、大島、近藤)
12月15日(月)	トータルシステム勉強会 黍嶋、サポーター(木全、村上、吉川、大橋、大島、近藤)
12月17日(水)	12月サポーター定例会 黍嶋、岸本、サポーター(村田、陶、木全、村上、高木、 大橋、竹内、平井) GIS第22回勉強会 サポーター(陶、村田、草田、平井)
12月22日(月)	トータルシステム勉強会 黍嶋、サポーター(木全、村上、吉川、大橋)
12月24日(水)	GIS第23回勉強会 サポーター(陶、村田、草田、平井)
1月 7日(水)	GIS第24回勉強会 サポーター(陶、村田、草田、平井)
1月 9日(金)	東栄町田舎暮らしシンポジウム打ち合わせ 黍嶋、サポーター(木全、村上、大橋、大島、近藤)

日付	活動内容
1月14日(水)	GIS第25回勉強会 サポーター(陶、村田、草田、平井)
1月18日(日)	東栄町田舎暮らしシンポジウム打ち合わせ 黍嶋、サポーター(木全、村上、大橋、大島、近藤)
1月21日(水)	GIS第26回勉強会 サポーター(陶、村田、平井)
1月28日(水)	GIS第27回勉強会 サポーター(陶、村田、草田、平井)
2月 4日(水)	GIS第28回勉強会 サポーター(陶、村田、平井)
2月 5日(木)	1月サポーター定例会 黍嶋、サポーター(村田、木全、村上、吉川、大橋、大島、竹内)
2月27日(金)	2月サポーター定例会 岸本、黍嶋、岩崎、サポーター(村田、村上、木全、大島)
3月10日(火)	3月サポーター定例会 岩崎、岸本、黍嶋、加治、サポーター(陶、村田、村上、木全、乙部、大橋、竹内、平井)

日付	活動内容
3月27日(金)	サポーター臨時会 岩崎、岸本、黍嶋、加治、サポーター(陶、村田、乙部、大橋、竹内、平井)



写真:豊川上流

実務研修を終えて

澤田 貴行



東栄町では、少子高齢化の進むなかでの集落機能維持をはじめとした

地域振興という大きな課題に対し、愛知大学から地域分析実績に基づく提言をいただくため、地域づくりに関して、平成19年6月に連携と協力をしていくための協定を締結しました。

この協定のひとつとして、この1年間、三遠南信地域連携センターにおいて実務研修をさせ

ていただきました。この1年には、地域づくりを考える集落調査、小学生の夏期休暇支援活動、インターンシップ学生の受入や健康づくり事業の参画等、生涯学習や文化、福祉等さまざまな分野で連携協力がさらに進み、東栄町にとって大きな成果をもたらしたと思います。これらの実務研修を進めるなか印象的だったのは、地域を学ぶ・知るために、多角的・専門的に分析を行うことの必要性を感じたことです。

なかでも、三遠南信地域連携

センターでは、GIS(地理情報システム)を地域に対する分析に取り入れており、大変興味を持って取り組むことができました。今後は、地域と連携したGISとして、地域の主体的利用が可能なGISの実現を目指されるそうですので、微力ながら継続して連携協力したいと思います。

最後に、東栄町のみならず、他自治体、産業界等へと連携が広がり、大学の高度研究成果が地域の場へ還元されることに大きな期待を寄せたいと思います。

編集後記

▶昨2008年12月24日付で中教審答申「学士課程教育の構築に向けて」が発表された。答申のなかで、我が国の大学教育の現状にふれ、「大きな問題の一つは、教育内容・方法、学修の評価を通じた質の管理が緩い」と指摘し、「現実の大学を見れば、多様な学生を迎え入れながら、個性化・特色化の徹底に向けた改革に汗を流す機関が多数ある。一方、学生や社会のニーズを十分顧みない旧態依然とした機関も存在する」という▶学士課程教育に何が必要か。寺崎昌男氏は「必要なのは、目標を設定する作業」であり、「教育目標を決めなければ、カリキュラムはつくれぬ」、そのカリキュラムも「目標がないと立てられません」と言う。さらに、「カリキュラムは学生のためにあるという原点を忘れず、「教員のエゴを最小限に抑えることがカリキュラム改革の基本的条件」と指摘する▶笹島移転は第二の創学といわれる。だとするなら、教授会はなにを置いても学士課程の改革、カリキュラム改革に全力を傾注すべきではないか。そのことを抜きにして笹島移転も生き残りも覚束ないとの思いを強くする。(K)

表紙写真:三河湾・六条潟(撮影・平川雄一)

編集・発行

愛知大学三遠南信地域連携センター運営委員会
〒441-8522 愛知県豊橋市町畑町1-1
Tel : (0532)47-4157 Fax : (0532)47-4576
URL : <http://taweb.aichi-u.ac.jp/sen-center/>
Email : sen-center@ml.aichi-u.ac.jp
発行日 : 2009年3月31日